

# 令和4年度 東日本地域高等専門学校技術職員 特別研修会（物質系）参加報告

技術第3班 伊藤 眞子

## 1. 目的

本研修会は機構の実施要項に基づき、高等専門学校の技術職員（学科、教室、教育研究センター、実習工場及び練習船等における教育・研究の技術支援に従事する職員）に対して、その職務の遂行に必要な高度で専門的な知識を習得させ、技術職員の資質の向上を図ることを目的としている。なお、本研修会の受講者は14名（参加校12校で主幹校は函館高専）であった。

## 2. 期間と会場

期間：令和4年8月24日（水）～8月26日（金）

会場：オンラインによる実施（主幹校：函館高専）

## 3. 日程

<1日目>

9:00-9:15 開講式

9:15-10:35 講義Ⅰ

「結晶化ガラスによる全個体ナトリウム電池の創生」

講師：長岡技大 本間 剛 准教授

10:50-12:10 講義Ⅱ

「はたらくたんぱく質」

講師：長岡技大 藤原 郁子 准教授

13:10-14:30 講義Ⅲ

「難分解性環境汚染物質である有機リン化合物の微生物分解について」

講師：函館高専 阿部 勝正 准教授

14:45-16:05 講義Ⅳ

「材料工学の視点から見た、農水、人文連携研究といくつかの例のご紹介」

講師：函館高専 寺門 修 准教授

16:25-16:40 記念写真撮影

16:40-17:00 連絡事項等連絡

<2日目>

9:00-12:10 研究開発技術等の発表及び討議  
(発表15分、質疑5分)

13:15-17:00 研究開発技術等の発表及び討議  
(午前中の続き)

<3日目>

9:00-12:10 コアファシリティー講演

「技学コアファシリティーネットワーク構想の取組」

講師：分析計測センター 田中 諭 教授

「SEM遠隔操作体験」

長岡技大技術支援センター

及び研究推進本部 URA

12:10-12:25 閉会式

## 4. 研修会に参加して

1日目の講義では、最新の研究事例から多様な連携の例を聴講できるなど広く知見を広げることができ参考になった。2日目は「こんにゃく芋栽培のための土壌改良判断キットの開発」というタイトルで研究発表を行った。多くの質問を頂き、今後の研究を進めるうえで貴重なご意見を頂くことができた。また、他高専の技術職員の本格的な研究に関する発表や、ものづくり講座の取り組み、化学と情報を組み合わせたような研究発表もいくつか見受けられ刺激を受けた。3日目は長岡技大のコアファシリティーネットワークに関する取り組みや分析計測センターにおけるSEMの遠隔操作を体験させていただいた。SEMの遠隔操作においては遠隔とは思えないほどスムーズで性能が良く、現在の分析技術の知見を広げることができた。今回この研修会に参加させていただいたことを今後の職務にかかしていきたい。